香川県教育委員会２月定例会会議録

１．開催日時　　令和６年２月７日（水）
　　開　会　　午前９時００分
　　閉　会　　午前１１時００分

２．開催場所　　教育委員室

３．教育委員会出席者の氏名

教育長	淀谷圭三郎
委　員	藤澤　茜
委　員	木下敬三
委　員	蓮井明博
委　員	鳥取美穂
委　員	持田めぐみ

４．教育長及び委員以外の出席者

副教育長（兼）新県立体育館整備推進総室長	海津　洋
教育次長（兼）政策調整監	白井道代
教育次長	三好健浩
総務課長	近藤高弘
義務教育課長	荻原絢嗣
高校教育課長	吉田　智
特別支援教育課長	藤田　明
保健体育課長	渡邉浩司
生涯学習・文化財課長	佐々木隆司
新県立体育館整備推進課長	景政孝輔
教育センター所長	藪内康則
政策主幹（兼）総務課副課長	宮西正博
高校教育課副課長	森　総子
総務課長補佐	市原登紀子
総務課長補佐	本田実治博
義務教育課長補佐（兼）主任管理主事	藤井祐治
義務教育課長補佐（兼）主任指導主事	中田祐二
高校教育課長補佐（兼）主任管理主事	三笠善宣
高校教育課長補佐（兼）主任指導主事	渡邉　謙
保健体育課長補佐（兼）主任指導主事	宮崎　彰
生涯学習・文化財課長補佐	森下英治
健康福利課長補佐	新名智子

教育センター教育研究課長	三　好　一　生
高校教育課主任指導主事	濱　口　　大
高校教育課主任指導主事	福 家 浩 一 郎
特別支援教育課主任指導主事	鳥　井　口　隆
総務課副主幹	猪 池 美 智 子
高校教育課副主幹	三　谷　　進
総務課主任	西　村　達　也
総務課主任	白　井　隆　司
総務課主任	田　中　一　成
義務教育課指導主事	眞　鍋　容　子
義務教育課主任	原　　綱　希
保健体育課主任	内 原 佑 扶 子
義務教育課主任主事	宮　本　将　弘

傍聴人　なし

５．会議録の承認

１２月２０日に開催した定例会の会議録署名委員の藤澤委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

１月１２日に開催した定例会の会議録署名委員の木下委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

６．非公開案件の決定

教育長から、本日の議題のうち、議案第１号は、教育委員会において会議を公開しないことと定めているもののうち、「県の機関の内部における審議、検討又は協議に関する情報であって、公にすることにより、率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるもの」に、議案第２号は、「個人に関する情報であって、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができ、公にすることにより、なお、個人の権利利益を害するおそれがあるもの」に、議案第３号は、「個人に関する情報であって、公にすることにより、なお、個人の権利利益を害するおそれがあるもの」及び「県の機関が行う事務に関する情報であって、公にすることにより人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれがあること」に該当するため、非公開としたい旨を発議。

各委員に諮り、非公開とすることに決した。

７．議　　案

○議案第１号　令和６年２月香川県議会定例会に提案予定の教育委員会関係議案に対する意見について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第２号　優秀な児童及び生徒に対する表彰について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

○議案第３号　教職員の懲戒処分について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

８．その他事項

○その他事項１　令和５年度香川県学習状況調査報告書について

教育センター所長から、令和５年度香川県学習状況調査に係る調査結果の概要等について説明。

【質疑・意見交換】

＜蓮井委員＞主体的な学びやＩＣＴの着眼点はよくわかったが、教科についての調査結果の特徴、複数の資料から必要な情報を読み取って問題を解くものに、単独の資料の情報のみで解答してしまうようであるが、これに対する改善策を考えているのか。

＜教育センター所長＞昔から言われていることであるが、例えば、中学校の理科の実験では、銅の性質を知っているだけでは不十分で、誤差や予想通りではない結果が出ることがあり、なぜ、そうなったのかを考え、それを確かめるためには、次にどのような実験をすればよいかを考える。この過程を授業の中で行い、深く考えることを意識して行うことが大事だと考える。

＜蓮井委員＞昔は問題意識を皆が持っていた。今は自分も含めて、スマホやＳＮＳの見出しのみ、単語で判断するのが浸透している。今言われたように、愚直に学校現場でやっていくしかないと思う。

＜義務教育課長＞全国学力・学習状況調査でも、しっかりと問題文を読まないと解けない問題が増えており、県の学習状況調査でも同様に創意工夫しながらやっている。令和６年度には新たに読解力向上のモデル校事業を行う予定であり、複数の資料をしっかり読み込んで授業改善していくようにしたい。

＜蓮井委員＞重要なポイントなので、よろしくお願いしたい。

＜鳥取委員＞無解答率が増加している。

＜教育センター所長＞今回の調査の中で無解答率が上がっているが、先程、出ていたように問題の中にかなり読み込んでいかないといけないものがあり、最後の方の問題になると無解答になっていたので、時間が足りなかった教科があったと思う。単純に選択肢から選ぶのではなく、方法を説明するものや、なぜそれが駄目か説明するものは、きちんと論理立てて説明しなければならないが、その前の段階で文章を書くことがしんどくなっているのかもしれない。そう言う意味では、人に分かるように説明する練習をしていかなければ、改善していかないと思う。

＜持田委員＞この調査結果の把握の仕方について、正答率の平均値が同じになるような調査を毎年していると言うよりは、傾向を少し変えながら、傾向に沿った授業を先生方がされているか、理解ができているかを調査しているのか。

＜教育センター所長＞資料に正答率の推移を掲載しており、令和元年と令和３年では少し傾向が違う。令和３年から自己判断が必要となる問題に重点を置いて出題している。ずっと同じ問題というわけではなく、全国学力・学習状況調査も踏まえながら行っているため、少し難しくなったとは感じる。

＜持田委員＞難しくなっているが、以前のように正答率７割を目指しているのか。

＜教育センター所長＞正答率が小学校で７割、中学校で65パーセントになることを目指して問題を作っているが、そこまでには至っていない。

＜持田委員＞結果について平均的なもの以外も、見せていただいたほうが良いと思う。香川県の場合、クラス規模に応じた結果は出ているのか。

＜教育センター所長＞クラス規模についてまでの、詳細な分析はしていない。

＜持田委員＞香川県は国に先駆けて 35 人学級を採用しているが、もう少し減らしたほうが学力的には効果があると言われているため、この観点からも分析するとよい。

＜教育センター所長＞また、分析したいと思う。

＜藤澤委員＞自分の子どもやその周りの子どもの様子をみると、知識を吸収するだけで精一杯の子どももいれば、そこは余裕で応用に行ける子どももおり、クラスの中で学力に幅があり、児童生徒主体の学び、個々の目標設定がまちまちになっていく中で、担任や教科の先生が一人ですべて対応というのは無理がある。今のまま先生一人の対応を続けるのか、一人で対応するなら、児童生徒主体の学びをどの程度のものとするのかイメージはあるのか。

＜義務教育課長＞そこは今後、検討していかなければならないと思っている。個別の学びのためにＩＣＴをうまく活用していくことが示されているため、スタッフを増やす等、いろいろな対応をしていかなければならない。

＜教育長＞調査を踏まえた分析は、良いほうに変わっていくためのものであり、中学の正答率の傾向（令和 5 年が低くなっている）を、どう受け止めればよいのか、もう少し細かな分析が必要だと思う。

○その他事項２　令和６年度香川県立高松北中学校入学者選抜の実施状況について

高校教育課長から、令和６年度香川県立高松北中学校入学者選抜の実施状況について説明。

【質疑・意見交換】

＜蓮井委員＞２年連続の定員割れの状況のため、何らかの戦略が必要であると思うが、どのようにお考えか。

＜高校教育課長＞昨年度、定員割れをしたので、小学校や塾等に聞き取りを行った。一つの要因としてあるのは、従来、高松北中学への進学者が多かった学校周辺の、屋島、古高松、牟礼、さぬき市においての子どもの数が、ここ数年、急激に減少していることである。昨年度そのような分析をして、今年度は、学校説明会の回数を増やし、新聞広告の掲載をし、塾等への説明を行う等の広報活動を行った。

結果的には、周辺の小学校からの出願者が減っているが、それ以外の地域については、回復したり、増えたりしている。広報については、一定の効果があったと考えられるが、周辺の地域からの出願が減ったことについては、現在、聞き取り中である。また、中学受検の場合、小学校が積極的に進路指導していないため、学校も十分に掴みきれていない。

今後、様々な方策を考えていかなければならない。

＜蓮井委員＞公立の中高一貫が注目を浴びた時期もある。せっかくある制度なので、それを磨き上げていくとよい。

＜高校教育課長＞高校はそれなりに成果を出しており、進学に関しては旧帝大を受ける数も増えている。スポーツではオリンピックチャンピオンの輩出やジュニアのレスリング、フェンシングといった中高一貫ならではの、ほかの中学校にはない部活動で、世界大会に出る選手を輩出している。このような魅力をしっかり伝えていきたいと考えている。高校受検がない分、時間的なゆとりがあるので、その時間を課題解決学習やグローバルに英語を使った活動を行っていることをもっとアピールできればと考えている。

＜藤澤委員＞高松北中学校区の近くに住んでいるが、今やっていることが部活動にないために選ばない子どもも実際には多くいると感じている。小学生が中学受検のイメージを身近に持っていないと感じている。私の子どもはソフトボールをしており、ソフトボールをしている子どもたちが、高松北中学にはソフトボール部がないと言っているのが聞こえてくる。高校受検がないよさを小学生もわかっては来ているが、受検に対してハードルを感じているところもあると思う。ユーチューブやインスタで北中学のものがあれば、子どもたちが見ると思う。

＜高校教育課長＞ユーチューブは、今、高校生が手伝いながら手作りで行っている。それにたどり着けるようなキーワード等を考えたい。

＜持田委員＞高松北中学の生徒に満足度調査を行っているのか。

＜高校教育課長＞満足度調査は、高校よりも少し良い程度である。高松北中に入る生徒は、入試を受けてまで入ってくる、一定、意識の高い生徒が集まっている。教科の指導については高校教員が一部兼務で行っており、充実している。他県でも見受けられるが、地元の中学に行きたくない、新しく人間関係を作り直したいとの生徒もおり、このような生徒のケアもできていると考えている。

＜教育長＞満足度が高くて、ＰＲをやった結果が、２年連続定員割れでは、結果を重く受け止めなければいけない。

○その他事項３　第７６回香川丸亀国際ハーフマラソン大会の結果について

保健体育課長から、第７６回香川丸亀国際ハーフマラソン大会の結果について説明。

【質疑・意見交換】　無し